令和元年台風 19 号被災者支援

報告書

発行日:2020 年 7 月 9 日

2019 年 10 月 12 日に日本に上陸した台風 19 号(令和元年東日本台風)は、長野県では長野市を含む北東エリアを中心に記録的な大雨と暴風をもたらしました。広い範囲で河川の氾濫が相次いだほか、人的被害や住家被害、電気・水道・道路・鉄道施設などライフラインへの被害が発生しました。被災地支援の活動拠点とした長野市では、一級河川信濃川本流の千曲川が決壊し、浸水被害は床上浸水 2,802 棟・床下浸水 1,049 棟に上りました(「長野市災害復興計画」(令和元年東日本台風関連)令和 2 年 4 月策定より)。公益社団法人シャンティ国際ボランティア会(以下 SVA)と特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン(以下 CFJ)は、協働で被災地支援に取り組むため、2019 年 10 月 16 日にスタッフを派遣し調査を開始しました。

初動調査・物資配布

発災 3 日後の 10 月 16 日から、SVA スタッフ 4 名と CFJ スタッフ 2 名を派遣しました。発災当初より交通機関の乱れがあり、東京～長野までの移動に半日を費やすほどでした。平時から繋がりのある長野県第一宗務所、長野県第一宗務所青年会、長野県第二宗務所青年会や全国曹洞宗青年会と協力し、長野市、飯山市、中野市、小布施町、須坂市の避難所を中心に調査及び物資配布を行いました。物資配布では、被災直後に必要とされる消毒用ハンドジェルや体を拭うボディシート、女性や高齢者を対象としたナプキン、尿漏れパッド等の衛生用品、クレンジングシートや化粧水、保湿クリームを含む基礎化粧品などを配布しました。

避難所運営者への聞き取り調査

支援物資の配布

被災者への聞き取り調査

【配布物資　実績】
＊対象避難所…長野市6ヶ所、飯山市1ヶ所、須坂市 2 ヶ所、佐久市 1 ヶ所

子どもの居場所づくり

1 つ目の支援活動は、子どもの居場所づくりです。長野市の北部レクリエーションパークには 80 人を超える子どもたちが避難していました。避難所開設直後から支援を行っていた長野市の子ども支援団体「特定非営利活動法人ながのこどもの城いきいきプロジェクト」（以下こどもの城）の主催する、避難所での「子どもの居場所」－託児や子どもの見守りに協力しました。日中、仕事や家の片づけ等多忙な保護者に代わり、昼食やおやつ、外遊びや室内での遊びなど、避難所で暮らす子どもたちができるだけ生活リズムを保てるよう配慮しました。また、子どものためにと長野市内外からボランティアさんが来て数多くのイベントが開催され、子どもの楽しみや癒しの場になりました。

避難所内の子どもの居場所　朝の会

避難所内の子どもの居場所でくつろぐ子どもたち

また長引く避難所生活により、勉強したいという子どもの声や勉学の遅れを心配する保護者の声により、避難所に学習場所を確保し、小学生から高校生まで利用できるようにしました。小学生と中高生の利用時間を分けるなど、狭い場所を効果的に使えるよう工夫し、受験生には特に重宝されました。

避難所内の学習室で勉強に励む子どもたち

避難所が閉鎖された 12 月以降においても、こどもの城と協働し、公民館や児童センター等で週末の子どもの居場所を支援しました。避難所閉鎖後も、家の片づけ等で忙しい保護者が安心して預けられる場として喜ばれました。何よりも、仮設などの仮住居に住む子どもは、近所に友達がいないこともあり、放課後や週末に遊ぶ場がなく、バドミントンやバレーボールなどのスポーツ、お絵かきやブロックなどをして一日を楽しく過ごせました。また子どもの送迎時に、コーヒーや紅茶などを用意し、保護者にも休息となる癒しの場を提供しました。

週末の子どもの居場所　昼食をとる子どもたち

2 月には、被災した自宅に戻る家庭が少しずつ見受けられるようになり、「一般社団法人プレーワーカーズ」と協働し、子どもたちが歩いて来られる場所での遊び場も開催しました。遊び場は、子どもが何の制約もなく自由に表現し、ストレスを発散する場でもあり、子どもの心のケアにもなりました。

週末の遊び場で遊ぶ子どもたち

【避難所での子ども支援】
10 月 19 日～12 月 3 日（避難所閉鎖日）
（「子どもの居場所」（10 月 16 日-11 月 30 日）開催協力。12 月 3 日まで子どもの見守り実施。）
利用した子ども数：のべ 1,522 名（うち幼児 278 名、小学生 1,185 名、中学生 59 名）

【避難所での学習室】
11 月 1 日～12 月 2 日毎日開催
利用した子ども数：のべ 240 名（うち小学生 127 名、中学生 82 名、高校生 31 名）

【避難所閉鎖後の子ども支援】
居場所　12 月1日～2 月 16 日計 13 回開催
ふるさと児童センター／ふるさと公民館／北部スポーツ・レクリエーションパーク
子どものべ 309 名（幼児 87 名、児童 222 名）、保護者のべ 66 名
遊び場　2 月 8 日～3 月 28 日計 12 回
子どものべ 118 名（幼児 26 名、児童 75 名、保護者 17 名）

傾聴サロン

避難所内にてグループで行われた傾聴

2つ目の活動は傾聴サロン活動です。お茶やコーヒーを飲みながら気軽に話ができる集いの場づくりを避難所で行いました。日中、人がまばらになる避難所では高齢者の方々が引きこもりがちになります。話をじっくり聞ける場所を作ることは、避難者の不安や心理的負担を和らげるだけでなく、被災者の置かれている状況、また支援ニーズの把握にもつながります。初動調査から協働している地元の青年僧侶の方々と一緒に避難所閉鎖まで週 3 日のペースで行いました。また曹洞宗長野県第一宗務所婦人会の方にもお手伝い頂きました。

避難所閉鎖後は、被災者の孤立化を防ぐため、地元の協力団体「穂保被災者支援チーム」と青年僧侶とともに、被災地域の公会堂や交流スペースで引き続き、傾聴サロンを続けました。仮住居での慣れない生活に対する不安、被害にあった住居や畑の再建、また僧侶だからこそ相談できるお墓の再建についてなど、被災者一人一人に寄り添い話を聞くことで、心のケアの一助となりました。

避難所内での傾聴活動

公会堂での傾聴活動

【避難所での傾聴サロン】10 月 28 日～12 月 2 日計 15 回開催
北部レクレーションパーク／豊野西小学校体育館　利用者数:のべ 102 名

【避難外での傾聴サロン】11 月 29 日～2 月 13 日　計 13 回開催
津野公会堂／赤沼公会堂／長沼地域交流ハウス　利用者数:のべ 98 名

仮設住宅集会所・交流ハウス備品整備

仮設住宅では住民同士のコミュニケーションをより円滑にするため集会所が設置されます。集会所は住民にとって生活再建や生きがいづくり、情報収集などを行う大切な場所になります。住民同士が協力しながら場づくりを行えるよう、机、パイプ椅子、テレビなど必要不可欠な備品提供を行いました。また被災地域に設けられた交流ハウスにも同様の備品整備を行い、復興に向けたコミュニティ再建の拠点づくりの支援を行いました。

整備した仮設住宅集会所で
開催されたお茶会で談笑する住民たち

【備品整備の実績】
対象地域…長野市内 2 カ所
（仮設住宅集会所、長沼地域交流ハウス）
納品物…机、パイプ椅子、テレビ、ポット、掃除機、湯呑、急須、タイルカーペット、トイレットペーパー等

蔵書支援

図書館寄贈書を千曲市の岡田市長へ手渡す様子

千曲川が市の中心部を流れる千曲市でも、台風 19 号による氾濫で、長野市に次ぐ甚大な被害を受けました。床上浸水した千曲市立更埴図書館では、児童書を中心に 1,037 冊の蔵書を廃棄処分しました。また長野市松代小学校に隣接する花の丸児童センターでも床上浸水し、蔵書の 2 割が被害を受けました。図書館の建物の復旧や蔵書再購入などは、行政から後回しにされがちです。しかしながら、図書館は地域住民が本に親しみ、読書の楽しみを提供する大切な場所です。

子どもにとっては大切な学びの場所でもあります。児童センターでも本を読む時間が設けられており、本に触れる時間を大切にしていました。SVA ではこれまでアジアの子どもたちへの教育支援の一つとして「絵本を届ける運動」や図書館の建設などを行っており、東日本大震災でも移動図書館活動を行ってきました。CFJ は、ネパール大地震の支援活動として学校再建に取り組み、その中で図書室の復旧・設置に取り組んでいます。両団体の経験から、被災者の心の栄養となり、復興の足掛かりとなる図書館のサポートとして蔵書支援を行いました。

【支援した蔵書購入費】
・千曲市立更埴図書館
2,000,000 円 （破損した約 800 冊相当）
・長野市花の丸児童センター
221,432 円（破損した 110 冊相当）
計 約 910 冊

被災直後の更埴図書館 郷土資料室の様子

会計報告

【収入】

	項目	金額(円)
収入	個人・関係団体・企業などからの支援金	29,272,235 円
	(うちワールドラグビー)	(10,864,981 円)

【費用】

	項目	金額(円)
現地事業実施経費	物資配布	348,145
	子どもの居場所	2,549,117
	傾聴サロン／仮設集会所・交流ハウス備品整備	436,729
	蔵書支援	2,221,432
	共通経費	64,363
	移動・宿泊費	5,339,094
	職員(派遣スタッフ)人件費	4,381,000
	職員(本部スタッフ)人件費	3,597,672
	一般管理費	4,479,864
	費用総額	23,417,416

令和元年台風 19 号被災者支援寄付金預金残高　5,854,819 円(3 月末付)

SVA と CFJ の協働は、2020 年 3 月末で終了しました。両団体とも、職員を派遣しての活動を 3 月末で終了しましたが、豪雨災害から半年以上たった今も 1,800 名以上の被災者が住み慣れた地域を離れ、仮設住宅での生活を余儀なくされています。また世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの影響は被災地でも無視できない問題です。2 月末からボランティアの受け入れ休止、被災した住民同士が交流する催し物も中止となるなど、復興の歩みにも大きな影響を及ぼしています。被災地は、今なお多くの課題を抱えており、長期的な支援がより一層、必要とされています。4月以降は、仮設園舎での運営を再開する保育園への遊具支援、避難所内における「子どもの居場所」の運営についての検証等を行う予定です。SVA と CFJ は、現地で出会い協力してきた団体と連携し、今後も可能なサポートをそれぞれ続けていきます。

公益社団法人
シャンティ国際ボランティア会
Shanti Volunteer Association

東京都新宿区大京町 31 慈母会館 2, 3 階
TEL 03-5360-1233
FAX 03-5360-1220
URL https://sva.or.jp/

ChildFund Japan

東京都杉並区善福寺 2-17-5
TEL 03-3399-8123
FAX 03-3399-0730
URL https://www.childfund.or.jp/